

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	S
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 文学部宗教文化学科では、「人材の養成・教育研究上の目的」を設定し、建学の精神であり大学の理念である「行学一体・報恩感謝」を体現できる人材、および人類の叡智の所産である世界の宗教を学び、現代社会を生きぬく智慧を有する人材の育成することを目的としている。宗教文化学科の「人材の養成・教育研究上の目的」の内容は、大学の理念を如実に反映するものとして、適切であると考えられる。				
(2) 文学部宗教文化学科では、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」を体現できる人材を育成することを目的として、宗教学・仏教学・禅学に関する専門的な知識を身につけ、さまざまな価値観を理解し、グローバルな視野に立って社会に貢献できる能力を養成することを理念としており、大学の理念・目的と学科の目的の間には、密接な関連性がある。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「人材の養成・教育研究上の目的」(https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)				
履修要項 文学部(2023年度、p.31)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、学科独自の「人材の養成・教育研究上の目的」を「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に明示している。				
(2) 宗教文化学科では、大学ホームページ及び毎年発行される履修要項に「人材の養成・教育研究上の目的」を掲載し、教職員及び学生に周知するとともに社会に公表している。宗教文化学科では、学科の特色を大学案内及び「文学部だより」の学科ページに記載している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部宗教文化学科「人材の養成・教育研究上の目的」(https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)				
履修要項 文学部(2023、P31)				
愛知学院大学「人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」(https://www.agu.ac.jp/guide/ideal)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
①	宗教文化学科では、教室での学修のみならず、「坐禅Ⅰ・Ⅱ」や、学外でのフィールドワークをおこなう「地域宗教文化Ⅰ・Ⅱ」などを開講し、「行学一体」の理念を体現する実践的な学修も採り入れている。
①	宗教文化学科では、「現代社会と宗教Ⅰ・Ⅱ」、「現代社会と仏教Ⅰ・Ⅱ」の科目を設定している。特に「現代社会と宗教」では、最新の時事報道をふまえ、その時事と宗教がどのように関わっているかを例示し、考察している。社会人向けの開放講座科目にも指定され、多数の受講者があり、時事と宗教との関わりを伝える役割を果たしている。
①	宗教文化学科では、2年生全員を対象として「基礎セミナーⅡ」の科目において、キャリア教育を2016年度より実施している。そこでは、大学生活を見直し、キャリアについて認識を深めるとともに、宗教文化と現代社会との関わりについて学び、グローバル社会に対応し、多様な宗教文化を理解できる人材の育成を図っている。
①	宗教文化学科では、大学の助成金を得て、毎年3年生を対象にして、教員も参加して研修旅行を行っている。研修後は参加者はレポートが課されて、フィールドワークの実践的学修を通じて、「行学一体」の学びを体験している。2023年度は10月14日に長野県諏訪市の諏訪大社などを訪問した。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
「坐禅Ⅰ・Ⅱ」シラバス (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=1&value(kougicd)=121035&value(crclumcd)=1001000014) (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221038&value(crclumcd)=1001000014)
「地域宗教文化Ⅰ・Ⅱ」シラバス (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221005&value(crclumcd)=1001000014)
「現代社会と宗教Ⅰ・Ⅱ」シラバス (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=1&value(kougicd)=121012&value(crclumcd)=1001000014) (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221015&value(crclumcd)=1001000014)
「現代社会と仏教Ⅰ・Ⅱ」シラバス (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=1&value(kougicd)=121029&value(crclumcd)=1001000014) (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221032&value(crclumcd)=1001000014)
「基礎セミナーⅡ」シラバス (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221045&value(crclumcd)=1001000014)
「3年ゼミ研修旅行案内チラシ」

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
①	「行学一体・報恩感謝」の建学の精神を具現化するためには、社会に対する実践的な取り組みも必要になってくる。本学大学院文学研究科宗教学仏教学専攻には、被災地や医療機関、福祉施設などで宗派を超えて心のケアを提供する臨床宗教師養成科目が2017（平成29）年度より開講されている。そうした実践的な社会への関与を促すような科目が将来的には学部レベルでもあるとよい。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
①	2023年度は、宗教文化学科で開講している「現代社会と仏教Ⅱ」において、「いのちと仏教」のテーマで生命倫理について論じたり、「罪悪と仏教」のテーマにおいて教誨師を取り上げるなど、社会に対する実践的な取り組みについての講義を実施した。
①	2024年度において、上記「現代社会と仏教Ⅱ」に加え、「地域宗教文化Ⅰ－Ⅰ」の授業で生命倫理（医療倫理）の講義を再開することを決定した。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
「現代社会と仏教Ⅱ」シラバス (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221032&value(crclumcd)=1001000014)	
「宗教文化学科 学科会議議事録」	

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 宗教文化学科では、毎年実施される教育に関する内部質保証として、毎年実施される学生による授業アンケートを、専任教員及び非常勤講師に対し、20名以下の演習科目を除く全科目で実施するように義務付けている。授業評価アンケートは、学内で閲覧できるほか、学部別のアンケート結果は、大学ホームページで公開されている。授業アンケートについては、自由記述を含め、文学部自己点検・自己評価委員会、さらに宗教文化学科自己点検・自己評価委員会において点検・把握し、内部質保証体制を構築している。学科では自己点検・自己評価委員会を定期的に開催し、自己点検・自己評価に基づく改善・向上に向けた話し合いを行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
授業アンケート依頼状				
授業アンケート学部別2023年度春学期 (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/jyugyo_enquete2023.pdf)				
文学部宗教文化学科自己点検・自己評価委員会議事録				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
③	専任教員及び非常勤講師全員に対して授業評価アンケートを義務付けている。半期に一度専任教員による学生面談を実施し、授業についての生の声を聞くようにしている。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
学生アンケート依頼状	
2023年度授業アンケートの集計結果 (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/jyugyo_enquete2023.pdf)	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
③	授業アンケートの回答率を上げることが課題である。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
③	学科のFD委員、学科教務委員を中心に授業中に授業アンケートに回答する時間を設けることを学科会議で審議し、それを実行している。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
文学部委員名簿	
全学FD活動報告書	

5. 「基準2」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)宗教文化学科ではディプロマ・ポリシーとして策定し、公表している。具体的には「宗教文化に関連する幅広い教養の修得、多様な宗教文化への理解と対応力、専門基礎語学の知識を生かした文献学的研究とフィールドワーク研究、宗教文化に関する専門知識の修得とその実践、卒業論文の作成能力」といった5つの力によって学位授与の判定をしており、その方針は、大学ホームページや文学部の履修要項に掲載されている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
ディプロマ・ポリシー (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)				
「文学部履修要項」(2023、P32)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な連関性がありますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、教育課程の編成・実施方針を設定し大学ホームページや「履修要項」に掲載・公表している。カリキュラム・ポリシーに応じたカリキュラムを作成し、「履修要項」「大学案内」「文学部への招待」において、教育課程の体系及び教育内容を公表している。具体的には、1年次に宗教学・仏教学・禅学の各専門分野の基礎的な知識を修得する。2年次では各専門分野に必要な基礎語学を修得し、より発展的な内容について学ぶ。3年次では宗教学・仏教学・禅学の各分野の専門演習(セミナー)を決定し、高度な専門知識の修得と応用を目指す。4年次ではそれまでの学修の集大成として卒業論文を作成する。				
(2) 宗教文化学科では、学位授与方針を示したディプロマ・ポリシーに対応したカリキュラム・ポリシーを作成している。学位授与の判定は、宗教文化に関連する幅広い教養の修得、多様な宗教文化への理解と対応力、専門基礎語学の知識を生かした文献学的研究とフィールドワーク研究、宗教文化に関する専門知識の修得とその実践、卒業論文の作成能力といった5つの力によって判定しており、その方針は大学ホームページや文学部の「履修要項」に掲載されている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
カリキュラム・ポリシー(https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf)				
ディプロマ・ポリシー (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)				
「文学部履修要項」(2023、p.80)				
「大学案内2024」(p.47)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞ 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞ コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、カリキュラム・ポリシーに則した教育課程のカリキュラムが組まれている。「履修要項」「大学案内」「文学部への招待」において、教育課程の体系及び教育内容を公表している。具体的には、1年次に宗教学・仏教学・禅学の各専門分野の基礎的な知識を修得する。2年次では各専門分野に必要な基礎語学を修得し、より発展的な内容について学ぶ。3年次では宗教学・仏教学・禅学の各分野の専門演習(セミナー)を決定し、高度な専門知識の修得と応用を目指す。4年次ではそれまでの学修の集大成として卒業論文を作成する。またカリキュラムにおいて身につけるべき能力は、カリキュラム・マップに表されている。 (2) 宗教文化学科では、1年次開講の「宗教学入門」・「仏教学入門」・「禅学入門」は選択必修になっており、専門分野の基礎的な知識を修得する。2年次開講の「サンスクリット語入門」・「パーリ語入門」・「仏教漢文入門」・「宗教学英書入門」は選択必修になっており、各専門分野に必要な基礎語学を修得する。3年次では宗教学・仏教学・禅学の各分野の専門演習(セミナー)が開講され、学生は自主的に専門演習を選択し、高度な専門知識の修得と応用を目指す。4年次ではそれまでの学修の集大成として卒業論文を作成する。以上のように、初年度から段階的に高度の学修へと進むように配慮がされている。 (3) 宗教文化学科では、カリキュラム・ポリシーに則した教育課程のカリキュラムが組まれている。さらにカリキュラム・マップには、カリキュラム・ポリシーに沿った形で表されている。カリキュラムマップは、大学ホームページの他、履修要項にも掲載されている。 (4) 宗教文化学科では、入学前教育として課題図書に基づくレポートの作成を課し、入学後、提出されたレポートに対して指導を行っている。また、宗教文化学科では、カリキュラム・ポリシーを定め、1年次の「基礎セミナーⅠ」において「読む・書く・話す・聞く」といった大学教育に必要な基礎的能力を身につけること、「地域宗教文化Ⅰ－Ⅱ」において、学外のフィールドワークに参加し、自発的に問題を発見し、仲間と協働して行動する力を身につけ、学外の社会とつながる重要性を理解することが明記されている。さらに、2年次の「基礎セミナーⅡ」において、学生はキャリア形成に必要なスキルを身につけ、大学を学ぶ意義と社会人として働く意義を明確に理解すること、3年次以降の演習科目(ゼミナール)で、宗教学・仏教学・禅学の各分野の専門的な学びを深め、学位取得に必要な知識や技能を見つけていることが明示される。また、カリキュラム・ポリシーには、「教養教育科目」と連携することにより、専門知識を補完する幅広い教養を身につけることも明記されている。 (5) 宗教文化学科では、2年次の「基礎セミナーⅡ」で、キャリアに関する授業を行っており、学生がキャリア形成に必要なスキルを身につけて、大学で学ぶ意義と社会人として働く意義を明確に理解する教育がなされている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
ディプロマ・ポリシー (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)				
カリキュラム・ポリシー(https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf)				
カリキュラム・マップ (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/2023/curriculum_map01.pdf)				
「基礎セミナーⅠ」シラバス (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=1&value(kougicd)=121042&value(crclumcd)=1001000014)				
「地域宗教文化Ⅰ－Ⅱ」シラバス (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221005&value(crclumcd)=1001000014)				
「基礎セミナーⅡ」シラバス (https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(semekikn)=2&value(kougicd)=221045&value(crclumcd)=1001000014)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置（授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等）を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）は適切ですか。 また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。 （教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等）	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体（会議名・誰が）」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、シラバスの予習時間、復習時間を明記するようにし、FD委員によるシラバスチェックも行っている。また、キャップ制を導入して、年間の取得上限単位を制限している。				
(2) 宗教文化学科では、入学時に、教務課、教養部の教員と協働して、新入生の履修に関するオリエンテーションをおこなっている。そこでは学生に大学及び学科のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを確認してもらい、履修の大切さや方法を教示している。また宗教文化学科では、カリキュラム・マップを作成しており、FD委員が毎年2月に非常勤講師・兼任教員を含めてシラバスチェックを行い、内容の適切性を確認している。また、シラバスと授業内容の整合性については、授業アンケートに設問を設けて確認している。				
(3) 宗教文化学科では、1年次の「基礎セミナーⅠ」及び「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」、2年次の「基礎セミナーⅡ」では、クラス担任制を取っており、比較的少人数のクラスでフィールドワークやアクティブラーニングを行い、学生の主体的に自分のノートを作り上げられるようになった。また、FD委員会において模擬授業を行い、教員が相互に授業を見学し、授業改善に努めている。				
(4) 定員を70名としており、大人数の講義形式の授業であっても100名以下を維持している。宗教文化学科では、1年次の「基礎セミナーⅠ」と「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」、2年次の「基礎セミナーⅡ」ではクラス担任制を取っており、比較的少人数の授業を実現している。また、担当教員によって、教育内容に違いが出ないように、共通内容のシラバスにしている。これより、どのクラスにおいても学科の教育方針に沿った授業や課題提出が行えるようになっている。また、入学時に、教務課、教養部の教員と協働し、新入生の履修に関するオリエンテーションをおこなっている。そこで学生に大学及び学科のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを確認してもらい、履修の大切さや方法を教示している。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
ディプロマ・ポリシー（ https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf ）				
宗教文化学科FD委員シラバスチェック報告書				
履修要項 文学部（2023、P.38-46 履修登録）				
「入学式プログラム」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	
		(5)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するために どのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6)	適切に学位授与を行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など 第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、128単位を修得していれば卒業要件充足者として学位が授与される。4年次の卒業論文については、 主査による論文審査と、副査による口頭試問の2つによって評価されている。主査・副査の双方による平均点によって最終的な 評価を行っている。各科目については、シラバスに必ず「評価の方法」を明示し、それに従って評価を行っている。 単位制度及び既修得単位の認定については、履修要項に記載し、それに基づき認定を行っている。				
(2) 卒業論文の口頭試問、中間発表会、中間指導会では、主査となるゼミ担当教員以外の教員が審査する。その際、ルーブ リックを用い、5つの能力判定を点数化している。さらに、全学科教員の参加する学科会議で公表し、公平さに努めている。				
(3) 宗教文化学科ではディプロマポリシーを策定し、学位授与に求められた能力を公示している。卒業論文審査においては、 ルーブリックを作成し、成績判定に用いる能力を点数化している。また、卒業論文の最終的な判定は、学科教員が全員参加す る学科会議で審議し、公平さに努めている。また、卒業・修了要件を履修要項に明示し、学生に周知している。				
(4)				
(5) 卒業論文の口頭試問、中間発表会、中間指導会では、主査となるゼミ担当教員以外の教員が審査する。その際、ルーブ リックを用い、5つの能力判定を点数化している。さらに、全学科教員の参加する学科会議で公表し、公平さに努めている。学位 授与は、文学部教授会の議を経たうえ、最終的には代表教授会で審査・決定しており、客観性及び厳格性を確保している。				
(6) 卒業論文の口頭試問、中間発表会、中間指導会では、主査となるゼミ担当教員以外の教員が審査する。その際、ルーブ リックを用い、5つの能力判定を点数化している。さらに、全学科教員の参加する学科会議で公表し、公平さに努めている。宗教 文化学科では、128単位を修得していれば卒業要件充足者として学位が授与される。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
履修要項 文学部(2023、p.7 単位制、p.26-28 単位認定、p.20-23 成績)				
卒業論文口頭試問ルーブリック2023				
卒業論文中間発表会ルーブリック2023				
卒業論文中間指導会ルーブリック2023				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。 (特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。)	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 宗教文化学科ではディプロマ・ポリシーを策定し、卒業に求められる能力を公示している。また、個人票(ポートフォリオ)を1年次に必ず作成し、1年生と2年生には年2回、個人面談を行っている。面談に訪れなかった学生や問題のあった学生については学科会議で報告し、学科教員の間で情報共有を行っている。また、宗教文化学科では、2019年以来、アセスメント・プランを実行し、DPで示した学習成果を測定するための指標を設定している。2021年度より優秀な卒業論文を書いた学生に対して卒業論文優秀賞を授与することを学科会議で決定し、2023年度は、卒業式にあたって10名の学生に授与した。

(2) 卒業論文の口頭試問、中間発表会、中間指導会では、主査となるゼミ担当教員以外の教員が審査する。その際、ルーブリックを用い、5つの能力判定を点数化している。さらに、全学科教員の参加する学科会議で公表し、公平さに努めている。宗教文化学科では、128単位を修得していれば卒業要件充足者として学位が授与される。また、1年生入学時に作成した個人カルデを卒業時まで保持し、2年生までは学科教育、3年生以上はゼミ担当教員が年に2回必ず個人面談を行い、GPAや取得単位、課外活動を含めた活動状況を記録し、学習状況・学習成果を逐次把握している。4年生の就職状況については、ゼミの担当教員が把握してキャリアセンターと情報交換を行っている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

個人票(ポートフォリオ)

1年生・2年生個人面談案内チラシ

宗教文化学科学科会議議事録(個人面談報告)

卒業論文口頭試問ルーブリック

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 宗教文化学科では、ルーブリックを用いた卒業論文中間発表会や中間指導会、卒業論文口頭試問の測定結果を、各ゼミ教員がゼミ成績に反映している。また、2019年度より、文学部自己点検・自己評価委員会において、学習成果の測定結果に基づき、教育課程及びその内容・方法が適切であるか、点検・評価している。

(2) 宗教文化学科では、特に、複数の教員が同じシラバスを使用して同時間帯に授業を行っている「基礎セミナーⅠ・Ⅱ」や「地域宗教文化Ⅰ・Ⅱ」において、担当教員が定期的に打ち合わせをして内容の点検や評価方法の確認、それをふまえた改善を行っている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

卒業論文口頭試問ルーブリック2023

卒業論文中間発表会ルーブリック2023

卒業論文中間指導会ルーブリック2023

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
⑥	卒業論文の口頭試問、中間発表会、中間指導会においてルーブリックを導入し、5つの能力について厳密に判定することにした。また、2017年度より「卒業論文マニュアル」を作成し、毎年改訂を行い、卒業論文執筆の指針を与えている。
⑥	入学式直後に、1年生全員を集めてランチ会を実施し、学科全教員も参加し、相互交流と及び学生の生活について聞き取り調査を行っている。さらに、遠方から進学し一人暮らしをしている学生が多い宗内生（曹洞宗宗門徒弟）の全学年を集めて、昼食会を開催して、生活上の問題点などの聞き取り調査を行っている。1,2年生に対しては半期ごとに個人面談を実施している。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
卒業論文中間発表会ルーブリック2023	
卒業論文中間指導会ルーブリック2023	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
④	学生からの特定授業に関する要望・クレームがあった場合には、学科会議で話し合っており、学生、教員の双方からの聞き取りを行って公平な観点から授業改善を促している。
⑤	卒業論文口頭試問は1人の副査が担当しているが、他学科では複数の教員による口頭試問もなされている。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既の実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
④	学科内で、授業のシラバスとの整合性、授業方法の工夫について定期的に話し合いを行っている。
⑤	他学科の様子・効果を調べながら、副査の複数制の有効性に関して継続的に話し合いを行っている。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
宗教文化学科学科会議議事録	

5. 「基準4」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 宗教文化学科では、愛知学院大学のアドミッション・ポリシーにもとづき、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた適切なアドミッション・ポリシーを設定している。具体的には、宗教文化を学問的に研究することで、宗教の歴史・文化・世界観を学び、同時代に現代人が直面している諸問題に取り組もうとする学生を求めることから、その学びを可能にする基礎学力、特に日本語読解能力、表現力を重視し、選抜をしている。 (2) 宗教文化学科では、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法の内容を踏まえたアドミッション・ポリシーを設定している。アドミッション・ポリシーに応じた学生を受け入れるため、基礎学力を備え積極的に学ぼうとする意欲のある人を、以下のようにそれぞれの試験ごとに選抜している。【1】一般入試:国語・英語・社会などの基礎学力がある人を求め、宗教文化を学ぶ意欲と適性を試験によって判定する。【2】AO入試:宗教文化を学ぶ明確な意思をもつ人を求め、学業以外の顕著な実績、資格を将来の学修につなげる意欲と創造力を、面接試験と書類審査によって総合的に判定する。【3】公募制推薦入試A:高等学校で学ぶべき基礎学力を習得した人を求め、課題文設問型の試験によって、日本語読解力と表現力を、国語・英語の適性検査によって学修の前提になる思考力・判断力・表現力を判定する。【4】公募制推薦入試B:国語・英語の適性検査によって、学修の前提になる思考力・判断力・表現力を判定する。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
入学試験要項				
アドミッション・ポリシー (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)				
ディプロマ・ポリシー (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) アドミッション・ポリシーに明記されている通り、【1】一般入試、【2】AO入試、【3】公募制推薦入試A、【4】公募制推薦入試B、といった異なる入試選抜制度を用い、多様な学生を受け入れる配慮が行われている。				
(2) 宗教文化学科では、入試委員会に出席する入試委員を1名選出し、入学者選抜実施のための体制を整備している。入試委員は、入試選抜の結果を学科会議で報告し、情報の共有化が図られている。				
(3) 入試委員を1名を選出し、入学者選抜選抜を公正に実施している。【1】一般入試、【2】AO入試、【3】公募制推薦入試A、【4】公募制推薦入試Bといった異なる選抜制度を運用して、公正な選抜を行っている。				
(4) 入学者選抜にあたっては、愛知学院大学の入学者選抜の規定に従って、別室受験、拡大解答用紙の使用、試験時間の延長、医療機器の試験室への持ち込みなどに配慮して、合理的な配慮に基づく公平な選抜を実施している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部委員名簿				
アドミッション・ポリシー (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)				
入学試験要項				
愛知学院大学受験生サイト 入試データ (https://navi.agu.ac.jp/examination/information/result.html)				

基準5. 学生の受け入れ

組織名

宗教文化学科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 ＜学士課程＞ ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 ＜修士課程、博士課程＞ ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 宗教文化学科では、入学定員を定め、入学試験要項などに明記している。入試委員会において公正に入学者選抜は実施されている。2023年度の入学者は定員70名のところ84名となり、14名超過した。2024年度入試では最終人数は今の段階(2024年3月13日)では未定であるが、80名を超える見込みであり、定員は充足している。ただし、大学基礎データ(2019年-2023年)を参照すると、「入学定員に対する平均比率」は1.11となっており、宗教文化学科単独で見た場合、比率が高いことが懸念されるが、今のところは文学部内の調整のみで止まっている。なお、2024年度入試においては定員を上回る見込みであるが、1年生の基礎教育を行う「基礎セミナーⅠ」及び「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」、2年生のキャリア教育を主眼とした「基礎セミナーⅡ」において、入学した学生をフォローする体制は学科として整えている。また、2023年度の編入試験の合格者はなく、転部(科)試験の合格者は2年次編入2名、3年次編入1名の計3名であった。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
文学部委員名簿				
宗教文化学科学生名簿				
入学者数・収容定員及び在籍者数 (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/teiin2023.pdf)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、入試センターが提供するデータに基づき、入試方法の改善と体制整備を図っている。1,2年生の全学生には半期ごとに面談を行っているが、とくに指定校推薦、AO入試、公募制推薦入学した学生の修業の進展状況については留意し、入試種別と出席数・成績との関連を点検している。				
(2) 指定校推薦の基準を改定するなど入試方法の改善と体制整備を図っている。指定校推薦の入学者が多い高校には在籍する学生に関することなどを郵送で伝え、信頼関係の構築につとめている。				
【根拠資料名】上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
指定校推薦評点基準表				
文学部委員名簿				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
①、②	宗教文化学科では、宗教文化を学問的に研究することで、宗教の歴史・文化・世界観を学び、同時に現代人が直面している諸問題に取り組もうとする学生を求めている。また、その学びを可能にする基礎学力、特に日本語読解力、表現力を重視し、選抜している。こうした受け入れ方針を大学ホームページに公表している。
④	オープンキャンパスの際、模擬授業だけでなく、中国茶、絵馬作り、写経、椅子坐禅、梵字などのイベントを企画し、高校生に学科の雰囲気を知ってもらおうように努力している。オープンキャンパスで訪問者数を増やし、志願者数の増加につなげることを工夫している。また、オープンキャンパスなどの情報を、以前より、学科運営サイトで配信しており、2023年度から学科公式インスタグラムを開始した。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

アドミッション・ポリシー (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)

オープンキャンパス各種プログラム

宗教文化学科学生運営サイト (<https://aigakusyukyo.hatenablog.com/>)

宗教文化学科公式インスタグラム (<https://www.instagram.com/p/ByHG0fqB2oh/>)

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
④	入試センターの提供するデータに基づき、入試方法の改善と体制整備を図っている。また、入試種別によって学生の学業の進展に違いがあるかどうかを計測し、フォローしている。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
④	入試のデータに基づいて指定校推薦の基準を見直している。
④	1、2年生には半期ごとに教員が面談して個々の学生の生活面、学業面の問題点を把握しようとしている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

宗教文化学科学科会議議事録

指定校推薦評点基準表

個人票(ポートフォリオ)

5. 「基準5」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針(分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、愛知学院大学文学部の「教員組織の編制方針」に沿って、宗教文化学科独自の「教員組織の編制方針」を策定し明示している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学文学部「教員組織の編制方針」				
宗教文化学科「教員組織の編制方針」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師又は助教）の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置（国際性、男女比等も含む） ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	A
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、2023年度は40代の教員が1名着任し、70代2名、60代1名、50代1名、40代3名、30代1名の8名体制となった。ただし、その中には学長1名が含まれ、大学運営の責任者となっているほか、2023年度は、2022年度から継続して大学院文学研究科主任1名、文学部教務主任1名を出しており、学科運営は厳しい状態が続いている。				
(2) 学科の専任教員数を適切に維持するため、文学部人事審査委員会を中心に、学科からも状況説明を行いつつ、計画的に教員人事(募集・採用・昇任)を実施している。				
(3) 教員8名のうち、男性教員は7名であり、ジェンダーのアンバランスの状態は続いている。非常勤講師には女性教員は多く、ジェンダーの不均衡は改善されているが、専任の教員として女性教員の増加が望まれる。宗教学分野4名、仏教学分野2名、禅学分野2名の教員がいるが、内実は、学長1名(仏教学)は大学運営の責任者であって多忙を極め、学科の授業や事務の負担は残りの教員によってなされている。とりわけ2023年度の仏教学分野は、1名で支えている上に文学部教務主任の役職を務めており、本分野において採用人事を行うことが火急の課題になっている。宗教文化学科は、立て続けに3人の学長を輩出してきたが、学科運営、授業担当の負担は残りの教員に強いられて、過重なものがある。				
(4) 本学の教養部の教員と連携し、学士課程における教養教育の運営体制の拡充に努めている。また、宗教文化学科開講科目においても、教養部の教員数名に兼担として講義科目を委嘱し、幅広いカリキュラムの実現に配慮している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
各学部・研究科における教員組織の編制の適切性について				
授業担当表				
宗教文化学科「教員組織の編制方針」				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 2019年4月付で改定された「文学部昇任・採用人事審査規定」に従っている。				
(2) 2023年4月に禅学を専門とする40代の新任教員が着任した。公募に際しては、「文学部採用人事審査規定」に記載された博士号の所持(取得見込みを含む)を求め、模擬授業と面接を行って公正な手続きで採用をおこなった。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
「文学部昇任・採用人事審査規定」				
宗教文化学科科学科会議議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。 ・教育改善以外に研究の活性化や社会貢献等の教員に求められる諸活動について資質向上を図る取り組みの実施 ※学部及び大学院について、それぞれの内容に特化したFD活動を行っているか、併せてご確認ください。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 宗教文化学科では、毎年FD委員を選出して、文学部FD活動に参加している。毎年、11月頃に研究授業を行っているほか、宗教文化学科内でもFD研究会を春学期と秋学期の2回開催し、授業の実施方法についての情報交換を図っている。また、全学で半期ごとに行われる「授業アンケート」に全教員が参加している。教員は、アンケート結果にコメントをすることが義務付けられており、アンケート結果を踏まえた授業の改善に努めている。				
(2) 文学部の他の学科と同様に、教員の研究活動、社会活動等については『愛知学院大学文学部紀要』の「研究活動」の欄において著書、論文、翻訳・資料。書評・口頭発表等を掲載し公表している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
全学FD活動報告書				
令和5年度授業アンケートの集計結果のウェブサイト				
『愛知学院大学文学部紀要』				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 文学部では人事審査委員会が、各学科の教員組織の適切さについて定期的に点検・評価を行っている。また、宗教文化学科では、学生のゼミ志望調書や学科開講科目の受講者数、卒業時アンケートなどに基づき、学生の希望する学習・研究分野などを考慮した上で、学科会議で教員組織の適切さについて定期的に検討している。				
(2) 宗教文化学科では、学科会議において、教員組織の適切さについて定期的に点検・評価を行い、専任教員及び非常勤講師の採用人事等に反映させている。				
【根拠資料】 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
宗教文化学科科会議議事録				
ゼミ志望調書				
卒業時アンケート				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
⑤	宗教文化学科に所属する専任教員8名のうち7名が博士号を持っている。科学研究費に積極的に申請し、研究代表者、研究分担者として共同研究に携わっている教員は多い。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
大学ホームページ、宗教文化学科紹介ページ (https://www.flet.agu.ac.jp/religiousculture/index.html)	
愛知学院大学の科学研究費実績 (https://shien-c.agu.ac.jp/)	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
②	教員8名のうち女性教員は1名しかいない。ジェンダーアンバランスの状態は続いている。
②	連続して学長を輩出してきた学科であるために、過重な負担が他の教員に課せられている。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既にも実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
②	ジェンダーアンバランスを是正することはすぐに難しいが、女性の非常勤講師の数を増やす努力は続けたい。
②	宗教文化学科の特有な事情については、学科教員の努力では解決がつかない問題であり、全学的なレベルでの合意形成が求められる。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
大学ホームページ、宗教文化学科紹介ページ (https://www.flet.agu.ac.jp/religiousculture/index.html)	

5. 「基準6」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	B

2023年度(評価対象期間:2023年4月～2024年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 宗教文化学科では、朝日カルチャーセンター名古屋において、2015年度より「愛知学院大文学部宗教文化学科連携講座」への出講を行っており、毎年全6回の授業を、専任教員が1回ずつ担当し、日本及び世界の仏教文化をテーマにして講義を行っている。2023年度は「現代に生きる仏教」の講座を開催し、約40名が受講した。特に、2023年度は、オンラインでの参加者も受け入れ、福井県や関東地方など、東海地区以外の受講生を獲得することができたことは特筆できる。また、「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」の授業では、覚王山日泰寺の協賛を得て、日泰寺や覚王山商店街でのフィールドワーク調査を行うとともに、日泰寺の僧侶による講義なども取り入れている。また、「基礎セミナーⅡ」では、キャリアカウンセラーを招き、宗教文化学科の専任教員と合同でキャリアについての授業を実施している。 (2) 宗教文化学科では、社会連携センター主催(2022年度以前はエクステンションセンター主催)のオープンカレッジの講座に出講している。2023年度は、「現代に生きる仏教」の講座を開催し、現代社会と仏教文化の関わりについて講義を行った。また、宗教文化学科の教員が開放講座として一般の聴講生を受け入れ、講義を行っている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
朝日カルチャーセンター名古屋、愛知学院大学文学部宗教文化学科連携講座パンフレット				
朝日カルチャーセンター名古屋、連携講座ホームページ (https://www.asahiculture.com/asahiculture/asp-webapp/web/WWebKozaShosaiNyuryoku.do?kozaId=1658858)				
愛知学院大学オープンカレッジ講座パンフレット				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 「地域宗教文化Ⅰ-Ⅱ」や「基礎セミナーⅡ」、開放講座に指定されている授業では、授業アンケートの対象になっており、学生の意見を反映して授業の内容と環境が改善されている。 (2) 愛知学院大学オープンカレッジの講座、朝日カルチャーセンター名古屋教室との連携講座では、必ずアンケートを取り、次年度の講座内容に反映させている。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
学生アンケート集計表				
オープンカレッジ講座終了時アンケート				
朝日カルチャーセンター名古屋教室・愛知学院大学文学部宗教文化学科連携講座終了時アンケート				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
②	宗教文化学科では、宗教文化に関わる教員の専門的知識を生かし、連携講座やオープンカレッジを開催している。この点での地域貢献は今後も実施していきたい。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
朝日カルチャーセンター名古屋教室・愛知学院大学文学部宗教文化学科連携講座パンフレット	
愛知学院大学オープンカレッジ講座パンフレット	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
②	宗教文化学科では、教員数が少ないために、連携講座等を毎年実施した場合、講義内容がマンネリとなる危険性がある。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
②	2023年度は、40代の教員が着任し、教員数の不足が改善され、連携講座やオープンカレッジについて多様性が期待されるようになった。アンケート結果をふまえて、積極的に連携講座等のあり方を考え、新しい企画を発信していきたい。
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	
愛知学院大学オープンカレッジ講座パンフレット	
朝日カルチャーセンター名古屋、連携講座ホームページ (https://www.asahiculture.com/asahiculture/asp-webapp/web/WWebKozaShosaiNyuryoku.do?kozaId=1658858)	

5. 「基準9」全体の自己評価

自己評価
基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。
A